

祈りのきずな

1月

イザヤ書38章～エレミヤ書2章

西南学院宗教主事 刘 雯竹（りゅう ぶんちく）

1日(木)イザヤ書38章 4～6節

長年アッシャリアの圧政に苦しんだヒゼキヤは、宗教的・政治的な独立を切望していました。彼が涙ながらに神に訴えたのは、病の癒しにとどまらず、アッシャリア支配からの解放でもあったと考えられます。預言者イザヤを通して語られた言葉は、命の儻さと歴史の背後に働く神の見えざる主権を示しています。

川内教会と立島和史協力牧師（鹿児島・薩摩川内市）

2日(金)イザヤ書39章 3～6節

病から回復したヒゼキヤは、次第に思い上がり、アッシャリアへの無謀な反抗を試みるようになりました。バビロンの王から派遣された使者が反アッシャリアの軍事同盟を提案した際、ヒゼキヤはこれに応じてしまいます。神の平和は、思い上がりを退け、へりくだつた心を持つ者によってこそ実現されるのです。

都城教会（宮崎・都城市）

3日(土)イザヤ書40章27～31節

神と契約を結んだ民は、国を失い、半世紀にわたる捕囚の苦しみを経験しました。その痛みは、政治的屈辱や経済的困窮にとどまらず、「信じてきた神は本当に正しいのか?」という、深い信仰の問い合わせまで及びました。それに対して、神は力強く語ります——主に望みをおく人に、救いは必ず与えられる、と。

宮崎教会と中條信治・中條邦子各牧師（宮崎・宮崎市）

4日(日)イザヤ書41章8～10節

希望の物語は、「忘れない」「見捨てない」という神の真実によって紡がれていきます。嘆きに沈む民に、神は彼らを選び、友として愛しておられることを思い起こさせます。たとえ契約が断たれたように見える時にも、神は選びの歴史を通して、いつまでも共におられるという確かな希望を示してくださいました。

青島伝道所(宮崎・宮崎市)

5日(月)イザヤ書42章1～4節

僕の詩に三度繰り返される「裁き(ミシュパート)」は、「義」とも訳され、神の正しさを表しています。傷ついた者に寄り添い、やさしさと忍耐をもってその正しさを確かなものにしていく——その神の僕の姿こそ、失われた信仰と自由、そして憩いの地の回復をもたらす希望であることを力強く語っています。

宮崎丸山町教会と金子貢司牧師(宮崎・宮崎市)

6日(火)イザヤ書43章8～10節

なぜ神は、「目があっても見えず、耳があっても聞こえぬ民」(8節)を、あえて証人として選ばれるのでしょうか。それは、弱き者を見放すことが神にはできないからです。愛と憐みを込めた深い信頼をもって、神はイスラエルの民をご自身の前に呼び出し、使命を託されます。そこに、神の救いがあります。

児湯教会と徳済敬尚牧師(宮崎・西都市)

7日(水)イザヤ書44章21～22節

神の恵みにあずかる民には、応答が求められています。神に造られ、選ばれたことを思い起こし、神を忘れずに歩むこと。罪を赦され、救われた者として、神のもとに立ち帰ることです。神の選びと赦しは、私たちの悔い改めに先立つ恵みです。その恵みに支えられて、私たちは日々、神のもとへと向かうことができるのです。

高鍋伝道所と児玉一郎牧師(宮崎・児湯郡高鍋町)

8日(木)イザヤ書45章11～13、22節

異国の王キュロスを用いて民を救おうとされた神のご計画に、強い選民意識をもっていた人びとは戸惑い、「神は正しいのか」と問い合わせたのかもしれません。しかし神は、万物の創造主であり、歴史を正しく治める方です。その救いは特定の民に閉ざされるのではなく、すべての人へと開かれているのです。

延岡教会と松田良明牧師（宮崎・延岡市）

9日(金)イザヤ書46章1～4節

私たちは、神以上に頼り、重んじているものはないでしょうか。自分のつくり上げた期待や理想を、誰かに押しつけてはいないでしょうか。「わたしの輶は負いややすく、わたしの荷は軽い」（マタイ11・30）と言われた方の声に、ただ聴き従いたいものであります。私たちが誇るものは、ただ神おひとりです。

天草中央教会と南圭生牧師（熊本・天草市）

10日(土)イザヤ書47章5～10節

バビロンは今、神の裁きの座に立たされています。神に託された民を顧みずに虐げたこと、地位が神からの授かり物であることを忘れ、快樂にふけり、自らを神のように振る舞ったことが罪とされているのです。圧迫の中にある民を救い、世界を正しく裁かれる神の到来を待ち望みつつ、平和を祈りましょう。

人吉教会と永済一隆牧師（熊本・人吉市）

11日(日)イザヤ書48章17～19節

神は預言者を通して、無条件の赦しを告げるとともに、その恵みに対する応答を求めました。それは、神と隣人との関係を正す「戒め」に生きることです。この従順のうちに、神は平和と祝福を約束されます。大河と海は、永遠と豊かさの象徴。神に聴き従うには、永続する平和が注がれると信じています。

熊本南教会と朴哲浩牧師、大森俊明伝道師（熊本・宇土市）

12日(月)イザヤ書49章 9～10節

半世紀にわたり築いたバビロンでの暮らしを捨て、荒れ果てた祖国へ帰る旅は、危険と困難に満ちていました。人びとは道なき道をさまよい、飢えと渴きに耐えながら水を求め続け——まさに命がけの旅でした。しかし神は牧者として民を導き、水のほとりに憩わせ、命を新たにしてくださったのです。

羊の群れ伝道所と朴哲浩牧師、大森俊明伝道師（熊本・宇土市）

13日(火)イザヤ書50章 4～8節

主に従う弟子は、しばしば屈辱的な迫害に直面します。その迫害は、捕囚地からの帰還に反対した同胞によるものだったのかもしれません。しかし弟子は屈することなく、「神の裁きの前に共に立とう」（8節）と呼びかけます。神の正しい裁きは忠実な弟子にとって、唯一の慰めであり、揺るぎない希望です。

東熊本教会と三上充牧師（熊本・熊本市）

14日(水)イザヤ書51章12～13節

主の弟子に敵対する者は、造り主を忘れたゆえに、人の力におびえて生きています。恐れは心を閉ざし、神とのつながりを弱めてしまします。しかし、神の愛と約束を信じる時、その交わりはいつも回復されます。「わたし、わたしこそ神」と語りかけてくださる主の声に、静かに耳を傾けたいものです。

豊岡伝道所と工藤信也代表者（熊本・合志市）

15日(木)イザヤ書52章 7～8節

福音とは、平和と救いを告げる「恵みの良き知らせ」です。帰還の民は、神を侮り自らを搾取する支配者や、荒れ果てた祖国の廢墟に落胆することなく、平和と救いを約束する神に向かって喜び歌うよう招かれています。弱った人びとに自由と力をもたらす恵みの良き知らせを、ともに伝えてまいりましょう。

山鹿新生教会と船越哲義牧師（熊本・山鹿市）

16日(金)イザヤ書53章5節

福音の預言者が描いた「苦難のしもべ」の姿です。その方によって癒しと赦し、平和がもたらされることを告げています。身代わりの救いによってしか癒されない人間の罪と絶望、自らを救えない弱さを思い起こさせられます。しかし、「神の力は弱さの中でこそ十分に發揮される」(Ⅱコリント12・9)のです。

熊本愛泉教会と朴哲浩協力牧師、田中芳樹代表役員代務者（熊本・熊本市）

17日(土)イザヤ書54章2～3節

柱に山羊の皮を張り、綱と杭で支えた天幕は、遊牧時代の象徴です。当時、家屋が一般的で、天幕は一時的な避難所、難民キャンプのようなものだったのかもしれません。帰還の民はシオンだけでなく、諸国之地にも広がっていきました。今、世界の中で居場所を失う人びとに、憩いの場が備えられますように。

八代伝道所やつしきと松本泰博牧師（熊本・八代市）

18日(日)イザヤ書55章8～11節

神と人の思いが根本的に異なります。人の思いは、自分の罪と神の罰にとらわれがちですが、神の思いはむしろ「赦し」に向けられ、「憐み」をもって人に臨れます。では、神の望みを成し遂げたのは誰でしょうか。「イエスは、…『成し遂げられた』と言い、頭を垂れて息を引き取られた」(ヨハネ19・30)。

種子島伝道所と沼田俊昭牧師（鹿児島・熊毛郡中種子町）

19日(月)イザヤ書56章3～8節

神の恵みは、特定の民族や身分を持つ人だけに与えられるものではありません。神は異邦人をはじめ、周縁に置かれた人びとも目を注ぎ、新しい契約の共同体を築かれました。その人ひとが集うところは「祈りの家」と呼ばれます。私たちの教会も、すべての人に開かれた祈りの家となることを願っています。

菊池シオン教会と濱川耕一牧師（熊本・合志市）

20日(火)イザヤ書57章15節

聖なる神は高みにおられながら、低き私たちの間に光を注ぎ、そこで出会ってくださいます。隠れた欲望や傲慢、苦しみや恥——誰にも触れられたくない心の奥を神に開く時、私たちは自分の眞の姿を見つめ、限界を悟り、へりくだります。その時きっと、神の命が私たちを新しく生かしてくださるでしょう。

大牟田フレンドシップ教会と眞柄光久牧師、福井正躬協力牧師、叶義文教会主事（福岡・大牟田市）

21日(水)イザヤ書58章 6～8節

神に従う眞の道は、断食や安息日をただ形だけ守ることではありません。社会に正義をもたらし、隣人を愛して生きる。その歩みこそ、預言者が示した道です。隸属や貧富の差を生み出す構造的暴力に抗し、虐げられた人びとに心を寄せる時、私たち自身の道も光に照らされ、神の栄光を表すものとなります。

有明教会と田中文人牧師（福岡・大牟田市）

22日(木)イザヤ書59章15～20節

正義が行われず、執り成す者もいない社会の現実に、神は深く心を痛められました。黙して見過ごすことのできない神は、み腕をもって救いをもたらし、恵みを示し、全地を正しく裁かれます。主の裁きは厳しいのですが、悔い改めて悪を離れる者に注がれる恵みは、その裁きを救いと祝福へと変えていきます。

大牟田教会と浦肇牧師（福岡・大牟田市）

23日(金)イザヤ書60章17～18節

困窮の時代を生きた預言者とイスラエルの民が、経済や物質に心を向けたのは自然なことでした。しかし、神の「命令」に従い、その「支配」に自らを委ねなければ、いかに多くの富を得ても、眞の豊かさには至りません。神の平和と恵みを求めて歩むことは、信仰の共同体にとって何より大切な道です。

五島教会と中村聖架牧師（長崎・五島市）

24日(土)イザヤ書61章1節

苦難の道を歩み、悲しみと心の傷を負う人に、神は確かな希望を与えられます。油注がれた救い主が癒しと回復、自由と解放をもたらしてくださいますからです。この良き知らせは、イスラエルの民だけでなく、時を超えて今を生きる私たちにも告げられています。今年も主の恵みの年を共に伝えていきましょう。

多良見教会と李守^{イスギヨン}卿^{キヨウジン}牧師（長崎・諫早市）

25日(日)イザヤ書62章1～2節、6～7節

沈黙せずに見張る者——「主に思い起こしていただく役目の者」とは誰でしょう。天使や預言者、そして神の言葉を聞き、その約束を信じて執り成す人は、皆、見張る者です。神のみ心が地に成就し、すべての人が救いにあずかり、平和のうちを歩むその日まで、私たちも口を閉ざさず、祈り続けましょう。

長崎教会と曹銀珉^{ショウインミン}牧師、田口圭子副牧師、嘉手刈夏希音楽主事、竹内洋美教育主事（長崎・長崎市）

26日(月)イザヤ書63章7～10節

預言者は民を代表して、神の憐れみと慈しみを思い起こしながら祈ります。神が「偽りのない子ら」と信じて選ばれた民は、その思いを背きによって裏切ってしまいました。その現実を前に、預言者は静かに嘆きます。執り成す者とは、あらゆる暗闇や痛みに誠実に向き合い、ありのままを神に差し出す者です。

諫早教会と向山^{むこうやま}満^{みつる}牧師（長崎・諫早市）

27日(火)イザヤ書64章7～8節

自らの惡によって力尽きた祈り手は、神がとがめを長く留めず、赦しの手を差し伸べてくださることを切に願います。粘土と陶工のたとえは、人が神のみ手のうちに形づくられる者であることを示しています。「子と父」や「御手の業と御手」という比喩は、人と神との親しい、深い絆を静かに語りかけています。

インドネシア伝道と野口日宇^{ヒタケ}満宣教師のために

28日(水)イザヤ書65章21～25節

神は、新しい天と地の創造を約束されます。そこは、人と人、人と神、人と自然が調和し、完全な平和が満ちる世界です。互いに恐れず、信頼し合う関係の中で生きる「明日」の到来は、現実の暗闇に心を搖さぶられる人びとに、大きな希望をもたらすでしょう。その希望を覚えつつ、新しい一年を歩みましょう。

国際ミッション・ボランティアの働きのために（佐々木和之氏・ルワンダ）

29日(木)イザヤ書66章18～21節

ペトロは「あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です」(Iペトロ2・9a)と語りました。神の救いは民族や文化を超えてすべての人に開かれ、やがて諸国の民がひとつとなって神を礼拝する日が訪れます。教会はその約束を、今ここに静かに映し出しているのです。

シンガポール国際日本語教会（I J C S）のために

30日(金)エレミヤ書1章4～12節

神はエレミヤを通して、ご自身の言葉を諸国の民に届けようとされました。しかし彼は、自らの弱さゆえにその召命をためらいます。そんな彼を支えたのは、「わたしはあなたと共にいる」(8節)という神の約束でした。神は言葉を与え、その成就を見守られるお方です。この真実こそが、エレミヤを使命へと導いたのです。

アジアバプテスト女性連合（A BWU）のために

31日(土)エレミヤ書2章13、31節

「罪」とは、ただ律法に背くことではありません。命を与えてくださる神との親しい関係を手放し、裏切ることでもあります。「**生ける水の源**」から離れ、虚しいものにすがった民を思う時、神の心はどれほど深く痛んだことでしょう。悔い改めると、その痛みに触れ、神のもとへ帰る歩みを始めることです。

E IWAN（福島移住女性支援ネットワーク）のために